



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

腎臓内科

尿検査の重要性

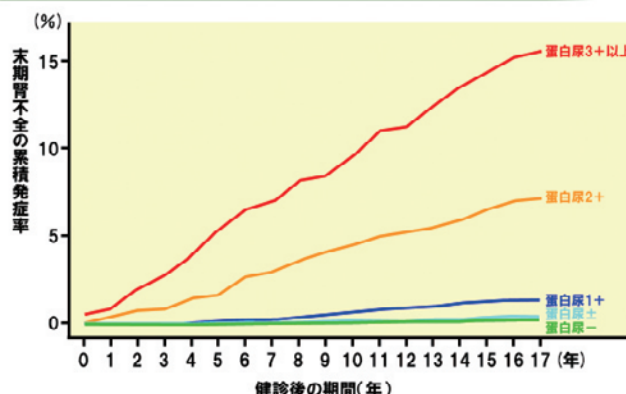
日頃何気なくトイレに流している「オシッコ」ですが、尿には体の中で起こる様々な出来事のヒントが隠されています。特に腎臓病では病気と治療の指標として大変重要です。

1)「尿たんぱく」は腎臓病の将来を予測する目安になります。……………

尿検査の項目の中で腎疾患と関連が深いのは「たんぱく」「赤血球」ですが、「尿たんぱく」はその量が多いほど将来透析へ至る可能性が高いことが分かっています(図)。ただし、通常の「定性」検査では、実際に尿たんぱく量が多いのか少ないのかは分かりません。「定量」検査を行う必要があり、外来尿検査で「尿たんぱく/尿クレアチニン比」として評価できます。「尿たんぱく/尿クレアチニン比」0.5以上の場合は腎臓内科への受診をお勧めします。



健診時の蛋白尿の程度(試験紙法)別の末期腎不全(透析)累積発症率(沖縄県)



(Iseki K. et al. Kidney Int. 2003;63:1468-1474. より引用, 改変)
CKD診療ガイド2012 p.8 より一部改変

2)「尿への塩分排泄(はいせつ)量」で日頃の塩分摂取(せっしゅ)量が推定できます。……………

体内に摂取された塩分は、腎臓の働きが正常であれば速やかに尿に排泄され、体内の塩分濃度は一定に保たれます。つまり、尿中に排泄された塩分量を測定すれば摂取した塩分量を推定することができます。現在、日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン2019」で推奨される計算式を用いて、外来受診時の尿検査で「一日の塩分摂取量」を推定することができます。

但し、実際の塩分摂取量を測っている訳ではなく、結果の解釈には注意が必要です。また、塩分が大量の汗や下痢便へ失われる場合は尿への排泄量が増える可能性があります。何より、「尿への塩分排泄量」にとられ過ぎて、他の大事な栄養摂取まで制限しすぎることがないように注意する必要があります。

上手に尿検査での「一日塩分摂取推定量」を利用して、適切な塩分・栄養摂取を心がけましょう。

毎年3月の第2木曜日は「世界腎臓デー」に定められており、2022年は3月10日に各地で腎臓病に関連したイベントが開催されます。ご自身の「オシッコ」が健康かどうか、ちょっと考える機会にしてみたいはいかがでしょうか？



(腎臓内科 部長 縄田 智子)

耳鼻咽喉科で多く見かける慢性副鼻腔炎(図)ですが、その1割に好酸球性副鼻腔炎が存在していると言われています。好酸球性副鼻腔炎では、鼻茸の影響に伴う嗅覚障害が強いのが特徴で、喘息や好酸球性中耳炎等を多く合併します(表)。従来の保存的内服加療や手術を行っても再発を繰り返すため難治性と言われる、現在国の指定難病にも認定されています。

図 慢性副鼻腔炎治療の流れ

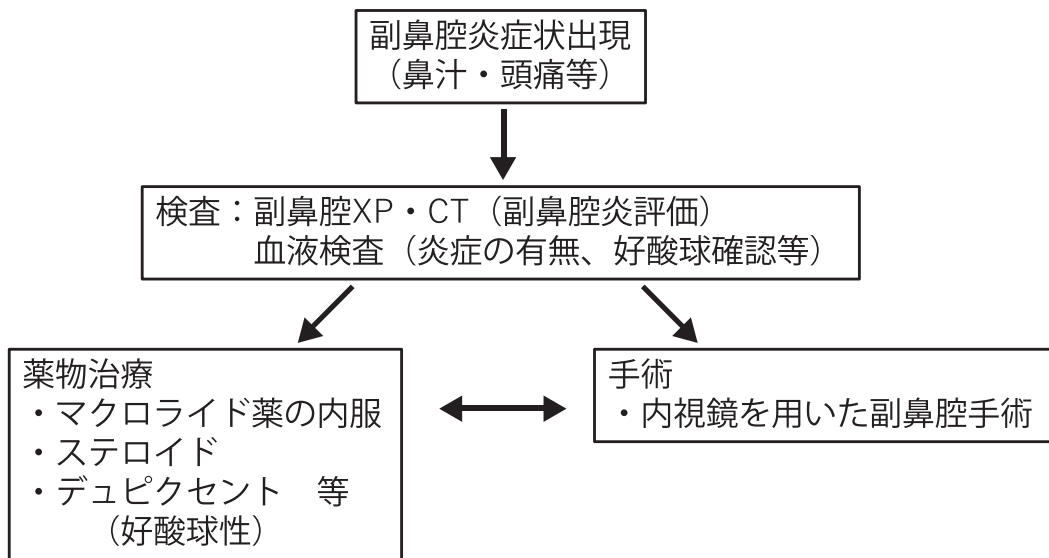


表 各副鼻腔炎の特徴

	従来の副鼻腔炎	好酸球性副鼻腔炎
主なサイトカイン	IL-1 β , TNF- α 等	IL-4, IL-5, IL-13等
好発年齢	全年代	成人以降
ポリープ	片側・両側あり、単発	両側・嗅裂に多い、多発
症状	鼻閉、鼻漏、頭痛	嗅覚障害がメイン
鼻汁の性状	粘液性、膿性	にかわ状、粘調
合併症	びまん性汎細気管支炎	気管支喘息、アスピリン喘息

近年、好酸球性副鼻腔炎の新しい治療としてデュピクセント®(一般名デュピルマブ)という新しい薬が使われるようになりました。このデュピクセントは、タンパク質の一種であるIL-4(インターロイキン4)とIL-13(インターロイキン13)の働きを抑える事で副鼻腔の炎症を軽減し、症状の改善効果が期待されます。2週間もしくは4週間に1度の皮下注射での投与になりますが、治療費が高額になることが多いため、耳鼻咽喉科難病指定医師の診断の上、指定難病に対する医療費助成制度を使用させていただく事が望ましいです。

副鼻腔炎の症状にお困りの方は、一度近くの耳鼻咽喉科で適切な診断を付けていただくことをお勧めします。

(耳鼻咽喉科 医師 藤永 真希)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら